平成 28 年 度

新庁舎建設に関する特別委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査
-

平成 28 年 4 月 8 日（金曜日）

新庁舎建設に関する特別委員会会議録

平成28年4月8日 金曜日

午前10時02分開議

午前11時17分開議（実時間72分）

○本日の会議に付した案件

1. 新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査

（新庁舎の方式について）

○本日の会議に出席した者

委員長 前垣信三君
副委員長 幸村香代子君
委員 亀田英雄君
委員 友枝和明君
委員 成松由紀夫君
委員 野崎伸也君
委員 橋本幸一君
委員 橋本隆一君
委員 古嶋津義君
委員 増田一喜君
委員 村上光則君
委員 山本幸廣君
委員 矢本善彦君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

財務部長 岩本博文君
新庁舎建設課長 谷脇信博君
企画振興部長 福永知規君

○記録担当書記

岩崎和平君
松本和美君

（午前10時02分 開会）

○委員長（前垣信三君） それでは、皆さん、改めましておはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

定刻となり定足数に達しましたので、ただいまから新庁舎建設に関する特別委員会を開会いたします。

◎新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査

（新庁舎の方式について）

○委員長（前垣信三君） それでは、特定事件であります新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査を議題とし、調査を進めます。

○委員長（前垣信三君） まず、新庁舎の方式についてを議題といたします。

本委員会は、3月定例会がありましたので、3月16日が審議の期間としては最終だと思っております。しばらく間があいておりますけれども、今までの委員会の流れを総括をいたしますと、本庁方式または分庁方式、どちらかの選択にするかという話の中で、千丁・鏡支所を一部活用して、分散型で、これも本庁方式ではどうかというような内容の話までは出ていたような気がしますが、きょうは、そのあたりを含めて、委員の皆さん方の活発な御審議をお願いをいたしたいと思います。

本件について、質疑、御意見はございませんか。

○委員（亀田英雄君） 先日、議会が終わりました、会派合同の議会報告会をしたんですよ。その中で、終わってからの話だったんですが、千丁と鏡は耐震基準に合わないようになるというような話を伺ったんですが。その根拠として、何か、執行部が商工会議所のほうに出向か

れて話をされた中で伺ったというような話を聞いたんですが、その真偽について、そうなのか、庁舎は耐震がとれないのかとれているのか、そんな話をされたのかということについて、ちょっとお聞きしたいと思います。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）新庁舎建設課長の谷脇です。よろしくお願ひします。

商工会議所のほうで、せんだって勉強会がございました。その中で、千丁支所と鏡支所が耐震がとれないという話は一切いたしておりません。（委員亀田英雄君「してない」と呼ぶ）はい。

○委員（亀田英雄君） はい。してないならいいです。何かそんな話をちょっと聞いたものですから、心配されて、そのような話を寄せられたというようなこともあったものですから、確認したことでした。ないということですね。耐震はとれてるということですね。

○委員長（前垣信三君） ほかにございませんか。

○委員（亀田英雄君） 今、委員長もおっしゃられたんですが、3月16日から久しぶりの会議となると。それまでは、3月議会で可決しなければ、間に合う、間に合わない、間に合わなくなるというような話だったと。その辺の言葉は、ニュアンスはちょっと、また正しくしていただきたいんですが、3月議会で可決しないと間に合わなくなるというような話の中で、結局4月を越えてしまったんですよ。もう間に合わぬとですかね。3月議会で可決せんば間に合わぬと言ひよんなったと私は記憶しとつてですが。その辺の、間に合う、間に合わぬっていう話は、どういうふうに整理されるんですかね。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。私どもは、十分な施工期間をとるためには、当然、

ことしの4月から基本設計のほうに入っていかないと時間がとれませんということで、今まで何度も御説明してきました。

最終的に、工期が短くなれば、また建設単価も上がるということになりますので、その辺を含めて言ったところですよ。

今回、3月議会において予算が可決されなかったという部分で、今回おくれをとったわけですが、それを挽回することができるんだというふうに、せんだって亀田議員は討論、採決の中で言われましたですよ、環境センターを例にとられて。それは、ちょっと、その話とこの庁舎の話は違うかなというふうに私どもは認識しております。

ですから、非常に厳しい状況であるということには変わりございません。

○委員（亀田英雄君） 私が話した内容ばひっかけて、そげんした話をすつとは、私にけんか吹っかけよつかい。（「そういうことではないだろう」と呼ぶ者あり）黙つててください。そげんした話ばしたっじゃなかでしようが。こん今まで言いよつた話ばちょっと整理してくれんねって話ばしたっじゃなかですか。そればひっかけて、そげんした話ばしろって言うたっじゃなかじゃないですか。（「そのとおり、そのとおり」と呼ぶ者あり）失礼ですよ、その話は。あなたがげん言ったけどつて、そげんしてしてくつとなら言い方がありますよ。何て話ですか。穏やかに話してれば、何かこう。そんなつもりで私は話したっじゃなかですよ。

で、間に合わなくなるって言うなら、16日にして、きょうの会議はどなたが招集されたんですか。ずうつとあつて、執行部はアプローチしてきたっちゃよかつじゃなかですか。そんな間に市長だつて外国に行つとうし、何のアプローチもなかですよ。本当に、何かしたような、何かする必要があるっちゃなかですか。何で今まで、途中何もアプローチせぬと、そんな言わる

つとなら。

いかがですか。大概今んとは憤慨する。何で、途中何で、アプローチも一回もない。

(「亀田議員、ちょっと冷静に」と呼ぶ者あり) あって、そげん言われれば。冷静にしたいですよ。(「けんか腰のごた話。ちょっと冷静に、冷静に」と呼ぶ者あり) けんか振られたかと思っただけけん、ちょっとしとつとぼってんですたい。何で途中、アプローチされなかったんですか。

○委員長(前垣信三君) どなたかお答えになりますか。

○財務部長(岩本博文君) はい。おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり) 財務部の岩本でございます。

3月定例会、終わりました、いろいろ期間もございました。私たちも、委員会をですね、聞いてほしいという気持ちは、もうやまやまでございまして、ただ、この委員会について、委員長のほうにですね、執行部から、言うなればせつについて、早うしてくださいというようなことで、そういうことをしていいものかどうかというようなところの、一つのちょっと気持ちもございました。

執行部だけそやん焦ってっていうか、何か、執行部が先頭を切って委員会を引っ張っていくと、そういうイメージも与えかねないというようなところでですね、議会に対しては、非常に慎重な形で対応を考えておりますもんですから。

今、亀田委員がおっしゃった部分については、まあ、痛しかゆしというところもございまして、なかなかですね、気持ちを察していただければというふうに思います。

○委員長(前垣信三君) はい。委員長から申し上げたいと思います。

基本的には、皆さん方の共通認識として、新庁舎はつくるんだと。当然、合併特例債を使う

と。合併特例債を使うということは、平成32年度までには完成するということの共通認識は、まず持っていただきたい。

そして、規模等にもよりますけれども、規模が大きくなれば建設期間も長くなりますので、早急な審議を進めないといけないということはわかります。

で、今、3月議会が終わった後に、なぜ早急に委員会を開かないのかという御指摘もありましたが、いろんな会派の日程等もありましたので、私としては、なるべく早く開催をいたしたいと思いましたが、いろんな調整の結果、きょうになってしまいました。

私のほうが、執行部と協議を重ねながら、なるべく早い進展をしたいという気持ちには変わりありませんが、今回は、きょうになったこと、これは、委員長、私の不徳だと思いますので、お許しをいただいて。(「そんなことないですよ。謝らなくて、委員長」「それはないです」と呼ぶ者あり) いえいえ、これは私の不徳ですから。なるべく早急な審査を重ねていきたいということを申し上げておきたいと思えます。

ほかに。

○委員(成松由紀夫君) その、けんか売りよつか、けんか売りよらぬとかっていう言葉はよかったですけども、そういう高圧的な話じゃなくて、この間の質疑の、私とのやりとりの中で答えられた部分がですね、やっぱり少しかみ合わなかったのかなという残念な思いもある中で、多分、執行部もそこを受けとめて、今、発言したのではないかなというふうに思いますし、まあ、けんかする話じゃなくて。

市長が外国行つとったり、すと、あのときの質疑でも、自民党が視察行つとっじゃないかって、やめろというような話、ニュアンスですね、があったんですが、うちもですね、別にその視察の日程のところで開催要求があつれば

ですね、それをやめてでも残つとですよ。あたかも、視察が入って、視察ありきで、我々が委員会に臨まないようなことではなくて。

実際問題はもう、毎週でもやろうと。スタート時から、うちも公明党さんも、2月までには早目にやろうじゃないかと。

で、間に合う、間に合わないという部分になると、この間、私がる言うたように、適正な工事期間を設けとかないと、あんまり押しつまって、工期のけつが決まるところで、中には業者さんも、そんな工期ならできぬ、なかなか難しいというような言葉が、専門的にやられとる方の話からも一部出とったから、あの方々も、これまでの議会の動向を見とったらずい方向に、間に合わぬ方向に行ってしまうんじゃないかということで、陳情3本出てきておる経緯がありますですよ。

だから、今から、とにかく、機能、希望、予算、これをどんどん話を皆さんやっていきましようよというときに、間に合うようにやろうじゃないかというお話だったので、何で執行部が開催ばしに来ぬとかというと、やっぱ執行部も多分、いたずらに早うせろ早うせろって言うところ、そこでやりとりが今まであつとですよ。早うせろ早うせろって言うたっちゃ、間に合う、間に合わせて言うたっちゃというような押し問答もあつたから、多分、執行部としてはなかなか言いづらかった部分があると思います。

で、うちとすれば、そういう、何か視察にかまけてるような言い方もされたんですよ、代表で話をして、うちは一日でも早く、いつでもいいですよということで、古嶋総団長から開催の申し入れがあつとったと思うとですよ。

早速、その本論に入らなきゃいけないんですが、私が思うにですね、やっぱ本庁建てかえのですね、部分の、これはやっぱ、50年物というか、建てれば、10年後、20年後、まあ5

0年後も含めてのコストシミュレーションですよ、本庁の。そのシミュレーションと、今、亀田議員の最初の話に関連すつとですが、支所の耐震とか、支所は分散型ちゅうことで、分庁方式は全くない話ですからね。分庁方式となると、総合窓口の問題云々が絡んでくるから、それは各町村の市民の方々に、——旧町村ですね、市民の方々に了解は多分得られないだろうなというのがあるので、総合窓口を置いた上で、本庁から幾つか出し入れできるのかどうかというのが分散型っていう話なんで。

その各支所の耐震であつたり建てかえの時期であつたり、そして建てかえた場合どうなのかという、そういったことも網羅しようなですね、コストシミュレーションみたいなものはあるのかなのか、また、時間がなければつくらぬといかぬとでしょうけど、そこら辺の何か資料は求められるのか、あるのかなのか、どうなんですかね。

○委員長（前垣信三君） 執行部、どなたか発言できますか。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。シミュレーションというところまでは行きませんが、本庁を建設するに当たっての、それが及ぼす公債費への影響、財政計画への影響というのは、前回、まだ総額134億円の話を出した2月の段階で、1回、渡しておるところでございます。だから、そういうのはございます。

○委員（成松由紀夫君） あれだと少し、ちょっとわかりにくいかなというのがあるですよ。もうちょっと何か、グラフ化して、市民の方が見てわかりやすいように、一目瞭然というか。

案外ですね、出てきた資料を心配されてる方が見たときに、やっぱりどうしても、行政用語が多かったり、やっぱり専門用語が多いと、これは何かい、これは何かいって、一々問い合わせに来て来なつ方もおんなつとですよ。この意味

がわからぬとか。なんで、少し、市民にもわかるようなやつであれば、議員さん方は当然わかるし、そういったわかりやすい、グラフ、——グラフっちゅうか絵とか、何かそういったものがついたやつを1つ、資料をつくってもらえませんか。

どうですかね。委員長、どうですかね。

○委員長（前垣信三君） はい、執行部と検討をいたしたいと思います。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 委員長の話でもあったんですが、委員会で否決の議員、分散型の提案がなかったということがあったというふうに思っております。

分散型だって、委員長の当初の話の中にもありましたように、その辺の話までしとったと思っているというような話もあったんですが、委員会否決の理由は、分散型の提案がなかったと、本庁の集中型だったということが主な理由ですよね、と思っております、というような話をしてきたと思っております。

で、執行部は、その分散型の提案を、シミュレーション、対案対案て言うたつですばってん、分散型のシミュレーションをつくっていただきたいと思っております、そうせぬば話の進まぬと私は思うんですが。その件について、そいばつくるつもりであつとかなかつかも含めてですたい、そうせぬば話の進まぬと思うとですよね。この話ば進むために。

どげんすればこの話の進むかという、——否決する理由はそこだったですけん。で、比べてどっちがよかかという話ばして、話ば転ばしましよて思うとつとに、それがなからぬままに提案がなされたということについて、数がそろわぬだったちゅう話ですけんが。それば今後どげんするつもりなのか。そればせぬ限り、

この話は進まぬですよ。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。せんだってから、話の中で、代替案という単語がよく出てくるんですが、（「対案って言いよったよ、この前、話したのはな」と呼ぶ者あり）ええ、今おっしゃっておられる部分ですが、執行部のほうからは、今まで面積にしまして2万3500平米の基本構想の案、それと、この委員会の意見を受けまして、1万9860平米の案を出させていただきました。

実際、この分散型の提案がないということでございますが、分散型というのは、私どものほうは、市民のワンストップサービスでありましたり、防災上の問題でありましたり、あと、行政効率のことを考えますと、ベストではないという判断をいたしておりましたので、分散型のやつは出しておりませんし、また、特別委員会から特段に、こういう形で、こんなふうなイメージのやつを出してくれんかというふうな指示も受けておりませんので、出してなかったところでございます。

○委員（亀田英雄君） 話は知つとつたけれど、指示がなかったから、せぬだったという話なんですかね。と理解してよかですかね。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。委員会の中で私たちが2案出しました後に、実際、成松議員からあつた案というのが、市民検討委員会に出ている部分、要は、市民の共同スペースでありましたり、そういうフロアあたりを、あと防災機能ですね、その辺まで減らしたんじゃないなくて、ちゃんと（聴取不能）（委員亀田英雄君「分散型は」と呼ぶ）やれという、そこはきちつと指示がありましたので、2万5000平米というのをを出させていただいております。それはあくまでも成松議員案としてから私たちは出しておりますので、執行部からの提案ということでは扱っておりません。

○委員（成松由紀夫君） 私もそがん理解しと

つとですよ。

私のとり方ですね、私の主観でいきますと、最初、執行部がこれなんですよというのが134億の分。あのスペースの分というのが、私はベストと思うとつとですよ。

というのは、この間も、質疑は今までの経過で言うるとおり、市民検討会であったり、地域協議会、中学生だったり、いろんなところの御意見を集約して、そしてバリアフリーの問題と通路、防災機能、その中を圧縮したものが、私は、あの最初出してきた案ということをおもったです。

ただ、金額的なものはですね、平成23年の試算だったから、このスペースでこの予算で、ほんなごてでくつとかい、平米当たり、国交省の（聴取不能）で見つと違うんじゃないかということで、その話もした中で134が出てきて、ああやっぱりそういう線になってるな、労務単価、資材高騰も含めてということで、最初は認識しておりました。

ところが、皆さんの中で数字にびっくりしたという話から、もうちょっと切ったやつを出してこいと、これは高過ぎるぞということで、2案目が出てきましたね。

2案目を見たときに、市民の使うスペースであったりとか、防災機能の分であったりとか、バリアフリー考えると通路の分とか、災害時ですね、いろいろな避難経路も含めて考えたんですよ。それは自民党会派の中で考えて、これはもう、開き直って切り過ぎとつとじゃなかつたかというふうな印象でした。切り過ぎてるものが出てきたなど、100億切つて。

だもんだから、私からすると、執行部に、これは切り過ぎだいいん、まちつと真ん中ぐらいの、皆さんの意見が少しづつ残るようなやつはなかつたろうかと、その辺の部分を考えてつくつてくれぬかいと。で、これは議員のお考えということでいいですかという確認をされまし

た。だから、ああ、いいよということで、それが出てきました。

しかし、私も、今、成松議員案と言われてしまうと、私が何もかんもつくつたつていう話じゃなかつたですが、私が言っておりますので、その案が出てきたときに、いや、私はこれでも納得でけぬけん、成松議員案でもいいんですよ、名前は何でも、ただ、私からすつと、やっぱり134がいまだにベストと思うとります。

その中間に出てきたものですね、あれもですね、少し防災の部分と市民検討会あたりの御意見、それと、市民の中にはですね、特に経済団体あたりが、妙見さんの展示スペースだ云々ということばおっしゃられる部分になると、私がお尋ねした、そして出てきた案でも網羅できてないんじゃないかなというのが否めぬわけですよ。

だから、この間もですね、対案、対案と言いいんなつときに、私は対案なら2つ出てきつとると思うとる。全て、総じれば3案あると。その中で、今、出てきてる分で協議するべきだから。結局、対案、対案つておっしゃられる部分で言うたらですね、それこそ、亀田議員案であるか、その野党の皆さんで、ぎゃあしこならよかつたいと。本庁はこやしこにして、支所は、農林水産は例えばどの辺に出すとか、何をどこに出すとか、議員発議ですつたい、修正動議でんつくんなつとだいいん、そんならいのとをしつたつてよかつたかですかね。これぐらいならよかよつていう、皆さんが納得するやつば、逆に提案して、それを執行部がまた手直しするなり、確認するなり、話し合するなりして、そして成案として出してきたらねえ、村上議員、それがよかつと思つとですよ。（委員村上光則君「そら出したい」と呼ぶ）それが早かと思つたよ。（委員村上光則君「そら出したい」と呼ぶ）

○委員長（前垣信三君） はい、はい。

○委員（成松由紀夫君） と思います。どうですか。

○委員長（前垣信三君） はい。執行部に確認をしますが、基本的にはいいかどうかは別として、今、個人名の案が出たという話もありますし。そうすると、そうしますと、委員さんたちが何らかの提案をして、そしてそれを討議しても構わないのかな。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） そうですね。結局、執行部は一貫して、これまでもずっと、防災機能の面とかで、あと市民サービスの面から、集中型でしか出しておりませんので、分散型ができるだろうと。

確かに、今の分散型といいますのは、今の本庁に入れなくなったから、やむなく出ていったという形の分散型でございます。

最初から分散型で何かを出せという話であれば、じゃあどこをイメージして考えてらっしゃいますかというのがないと、こちらのほうもつくりようがありません。

ですから、どういう部署を出すとか、何人出すとかといったところで、さあどうなんだということによっていただければ、この前、基本構想案でありましたり、たたき台でありましたり出しましたけども、あんなふうな形でちゃんと計算してからお出ししたいと思います。（「そうそう」と呼ぶ者あり）

○委員（山本幸廣君） 今、執行部からの説明を聞きながら、ふと感じたのがですね、なぜ修正をしたのかということですね、もう少し真剣に考えていただきたい、執行部は。

あなた方は全庁と言うんですけども、それは全庁は全庁でいいですよ。だけど、議会というところは、そういう修正をしたならば、なぜ修正されたのかということ、まずは反省と考えていただきたい。

そして、私たちもですね、それはなぜ分散にしなきゃいけないかということは、再三この委

員会で議論をしてきました。それは、鏡の支所、千丁の支所、この利活用をどうするのかということ、耐用年数も考えた中ではですね、今から20年、30年先まではいいんだという状況も、皆さんと確認したわけですね。だからこそ分散にしてほしいと。

じゃあ、それから人口のビジョンを見ても、30年先には、鏡と千丁の支所が30年先になりますと人口はどれぐらいの、ビジョンの中で減少していくんだ、となりますと、同時に並行してから職員数は減っていくんですよ。職員数は減っていくんですよ。

となれば、職員数が減ったときに、分散したとき、もしも鏡に200人、千丁で200人。今は千丁は24人で、（聴取不能）いっとるのが120人ぐらい。鏡が（聴取不能）入れて三十四、五人ぐらい。分散したときには、200、200いったときに、30年後の人口ビジョンを見たときにはですよ、どうなりますか、はっきり言ってから。今、799で、800で本庁舎をつくったときですよ、職員数が減ったときには、私は鏡は30年後にですよ、本庁というのはしっかりした中でつくって、その職員数の中でつくるという状況が一番いいんじゃないかと思うんですよ。

今言われたから、分散型で提案してよかてことなら提案しますよ委員長、早速提案させていただきます、次の委員会に出しますから。

○委員（橋本幸一君） 確かに、今、提案してくださいということが出たんですが、基本的にはどういう方向性で提案するかということ考えたとき、今、私たち自民党は、公明党さんも含めて言ってるんですが、この防災機能、それからワンストップサービスを前提とした提案ですね、そこはですね、何かの基本を持ってないですね、これはちぐはぐになっていってしまうし、まだいろんな、将来、人口減、それから職員減ていうことは、確かにあるかもしれない

ですよ。

しかし、これからいろんなやっぱりサービスの多様化がしたとき、果たして窓口がですね、比例して減っていくかって、私はそうじゃないと思うんです。

だから、ちゃんとした窓口というのは当然必要だし、そこの部分についてはまだ未知数であるわけです。だから、やっぱり今を基本として、私は防災機能を、それからワンストップサービスというのは、これはちゃんとした基本の中に置いての提案でなければいけないと、私そう思います。

○委員（成松由紀夫君） 要するに、私が一般質問なり質疑でも触れたんですが、職員削減、根拠のないっていうふうに言ったんですけどね。

というのは、やっぱりですね、今からいろいろ地方に分権といいますか、権限移譲されて、本当に職員さんが、まあ人口は減ります、職員さんも減るのは減ると思いますが、今のままだと、ただ、緩やかであってですね、やっぱり職員の業務なんかはまた多岐にわたっていくと思うんですよ、権限移譲であったりいろんなものが出てくると。

だから、極端に減るようなことではないというのを思うので、やはり、今、橋本さんが言われた、やっぱりワンストップサービスであったり、防災機能の拠点としての確保、一般質問で言うた県庁の新館の方法がぴしとですね、日赤、自衛隊とも対応できるようなこと、の容量を確保してある、そういったものも少し考えたもの、何か基本とする、ベースがあるもので考えていただきたいと思います。

○委員（亀田英雄君） 議会に対案を、提案をせろということだったんですが、執行部の執行権を最大限尊重してせぬとですよ。執行権、国会のごたる、勘違いしとっとじゃなかですか。執行部が提案してくつとが筋でしょう。だけん

せぬとですよ。執行部の執行を最大限尊重して。（「権限ば侵すもん」と呼ぶ者あり）せんば執行部じゃなかですもん。

八代の優秀な執行部は、私たちの意を酌んで、それなりの案を出してくるもんということでしたとったんですが、それは執行部の権限を持つとることになりますもん、今度出したら。よかったですか、それで。出しますよ。

そげんした話じゃなか話ですよ。おたくたちは執行部の、執行部としての尊厳はなかかったですか。踏みにじることになりますよ。

よか、答えは要らぬとだけん。私はそげんとまで考えて、あえてせぬだった。で、完全な、まだフリーハンドの試案ですが、副委員長に預けときましたので、後で部長、委員長、副委員長で検討してもらえばよかと思ひます。

○委員（橋本幸一君） 私が今言ったですね、防災機能とワンストップサービスはやっぱり、基本に置くってことは、ここは、この委員会での共有の基本的理念として、これは合意でけぬとですか。

○委員長（前垣信三君） 皆さん方のお手元にあるかと思いますが、この、新庁舎建設準備室が作成してお手元に配つとるのがあります。これを、もしないならいいですが、そのまま見ますと、本庁方式と分庁方式と挙げられて、メリット、デメリットが書いてあります。この時点では、本庁方式にするという話ではなくて、本庁方式の場合はこうです、分庁方式の場合はこうですという、これ資料だと思ひますね。

このあたりを踏まえて、これから私たちが話を進めていくのはどういう方向にするのか、ここが一番大事なかなと思ひます。（「そこは知っています」と呼ぶ者あり）

で、今、橋本委員がおっしゃったみたいに、ワンストップサービス及び防災機能も考えて、どういう方式を選ぶのか、このあたりがこれからの審議の方向だと思ひます。

で、先ほど言いましたように、成松試案ではありませんが、委員の方々が提案をしていただいて、それを皆さん方と討議をするということもできるということであれば、皆さん方が、了解をいただければ、それぞれの案をお出しただいて、皆さん方とお諮りしても構いません。そのあたりはどうでしょうか。

○委員（古嶋津義君） はい、古嶋津義でございます。

この前、亀田議員とですね、私は名前を間違えられましたので、はい、何度も申し上げます、津義でございます、はい。

先ほど、委員長のほうから、特例債の活用、それから建設の期間が3年まではやろうと、その辺は皆さんの共通認識だろうというふうに思います。

その中で、先ほど山本委員からも言われましたように、千丁、鏡の支所を活用して、分散方式といいますか、そういうことも提案をしてよかならするばいと。亀田委員さんからもちょっとありました、もう提案してあるかもしれませぬが、その辺のところをですね、お出しただければ、やっぱり協議をしていって、なるだけですね、その中にワンストップサービスとか防災機能がどうなるのか、その辺のとも検討して、まあ、よければ、週に3回でも開いて、なるだけ間に合うようにお願いをしたいなというふうに思います。

○委員（村上光則君） さっきの話に帰りますが、執行部ですたい。先ほど、私たちに遠慮しとってというようなことで言われたごたつぱってんが、何で議会が終わって20日近くばかりになつとるにたい、私は一般質問でもちゃんと言うつたでしょう、集中審議をすれば間に合うじゃないかって。何で開こうとせぬとですか。集中して、何回でもこの特別委員会を開けばよかつじゃなかつですか。そう言うたでしょう、部長。そしたら、審議ば、今のような審議

ばしていけるわけですたい。私たちは案を出しますよ、そら。さっきの話じゃないけど、134億の成松委員から聞いたばってん。（「村上委員、招集権は執行部にはなかけん。招集権な執行部にはなかけん。」「招集権は委員長だいいけん、執行部じゃなかつだいいけん」と呼ぶ者あり）いや、話し合うてたい、早く開くようにすればよかつじゃなかつな。それは執行部がせぬば、どぎゃんすつとんな。

○委員長（前垣信三君） 委員長から少し申し上げたいと思います。

行政視察自体は、議員にとっては非常に大事なことだと思えます。基本的には2週間前に通告をしないといけないと。ですから、前回、自民党さんたちが3月の末に行政視察をされた。それは、議会が終わる、終わらぬぐらいでない、まず、日程的には難しかったと思うんですね、議長の承諾を得るには。

ですから、そのあたりを考えると、これからもそうですが、視察を考える前は、まず2週間前には言わないかぬもんですから、そのあたりを含めて、前回の自民党さんたちの視察はですね、これは、視察をやめて委員会をするというわけにはいかぬと、私個人では思います、委員長としてはですね。だから、あの時期としては、間違いなくこの委員会を開く日程は、難しかったと思います。

なら、4月明けてすぐということでしたけれども、いろんな調整をして、きょうにはなりました。

以後は、なるべく緊密に、短い時間で委員会を進めますが、今度は議員として行政視察をなさる場合には、そのあたりも十分含んで行政視察の日程をおとりいただくように、これは委員長からお願いをしておきます。

○委員（成松由紀夫君） いや、自民党の視察云々というのはですよ、そんな問題ではなくて。3日間ですよ。だから、我々からすれば

ですね、別に23、24の問題でもあったり、要は、28から30だけ外せば、先週でも開けたんですよ。だから何かあるんじゃないかなってというのは、要は準備はしとっとですよ、それなりに。

で、今回の視察の分は、視察研修というよりも、各省庁に対する意見交換であって、これも八代市にとっては大事な要望活動でもあったので、2週間前とおっしゃいますけど、3週間前から組んで、どうしても、これもぎりぎりのタイミングのことを一生懸命、古嶋総団長を中心にですね、やっとするわけですね。だから、それがこの委員会に影響する、影響しないというようなことは、最大限、影響しないような形で、3日間という部分です。余り、この特別委員会をですね、遅延するために行くようなことでもないわけですから。そこはお取り計らいいただきたいのと、それと、——（委員長前垣信三君「いやいや、私が申し上げたのは」と呼ぶ）よろしいですか。（委員長前垣信三君「はい、はい、はい」と呼ぶ）

それと、あと、成松試案っていう話がちょっと、今言いなつたんですけど、せめて、執行部が出した第1案、その後出てきた第2案、で、私がお願いして出てきた第3案ぐらいに、執行部とちょっと。（「執行部が訂正すればよかった。ネーミングは訂正さすったい」と呼ぶ者あり）ネーミングば。

成松試案っていうと、また何か俺があたかも一から十まで何かして、それに大賛成で。（「俺は大賛成と思うとるよ、俺はそう思うとるよ。」と呼ぶ者あり）俺が大賛成なら成松試案でよかですよ。

前垣さん、俺がですね、大賛成ならよかすたい。成松試案で。ところが、成松試案ちゅうか、私は第1案が賛成なんで、そこは第1案、第2案、第3案ぐらいで。

○委員長（前垣信三君） はい、議論が白熱を

いたしておりますが、なるべく冷静に御審議をお願いしたい。

先ほど、成松委員がおっしゃられましたが、何も私は自民党の会派の視察がいい、悪いという話ではないんです。たまたま2週間前に、視察の日程は議長の許可を得ないかぬから、どうしてもあの時期にしかできなかったということをおっしゃったんです。だから、今後のこともお願いしたのはそこです。活動される時には、そのあたりの日程も含んで調整をお願いしたいということをおっしゃりました。

それと、執行部に、今、個人名を出して何とか案という話をされましたが、以後は、そのあたりはなくしたいと思いますので、十分、発言には注意をされてください。

はい、ほかに。

はい、谷脇課長。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） 済みません。個人名の案を出したことをお詫びいたします。（「そうそう」と呼ぶ者あり）が、執行部案ということで出してしまいますと、その案につきまして、執行部は執行部が出したのから選んだだけだよということで考えられてしまいますと、結局、執行部としては、これならいけるというところの、どこまでたたいて出していくわけですので、それを、ただ単に執行部から出された案なんだという扱いで、今回、別建てで注文を受けたものをつくる際に、それを執行部からの案ということで扱ってしまいますと、それに対して、私たちは、その説明ができない、要は、どこの部署を出すとか、何人どこに出すっていう話が、私たちでは説明が付きません。ですから、あえて、執行部案とは違うものがありますということをおっしゃるために、申しわけないんですが、個人名を使わせていただきました。

で、そのところを御理解いただきまして、この案の扱い方でございますが、多分、議事録

のことも心配されてだと思います。ですから、議員提案とかそういう言い方でさせていただくと助かります。

○委員（成松由紀夫君） 了解しました。そがんせないかぬでしょうね。責任持ってやっぱりせん。

○委員（亀田英雄君） 分散型の提案をしよらぬでおって、出る出ないという話を執行部がでけぬて話はでけぬじゃなかですか。まだしとらぬとだけん。

以上です。

○委員（野崎伸也君） はい。今、谷脇さんが言われたというか、自分たちが、執行部が出した案が、それが一番の、最良の案だいけないということで、それを傷つけないというふうなふうにしか、私は聞きとれぬだったです、今んとは。自分たちが、そういう案を、2案、3案出してくるっていうのは、全くもって受け付けないだよというような話にしか、私たちには今聞こえぬだったですけど。

それはそれでよかったですけど。ちょっと、さっきの話に戻らせていただきたいんですが、案を出してくださいよって話ですよ、今、谷脇さんが言われたんですけど。本当にそれでいいんですかと、もう一回、私は確認しますよ。これまでの中でですよ、私、議員、7年してきたんですけど、これまでそやん話がなかったと思うんですよ、やっぱり。いろんなところで、自分たちの、さっき、自分たちの執行権ば侵すっちゃなかって、亀田さんが。あんたたちの仕事ば、俺たちがとるとじゃなかっていう話なんですよ、議会が、結局。

だけん、今まで、そういう、執行部は自分たちの仕事っちゅうのを、頑なにですね、やっぱり誇りば持って守ってこらしたと思うんですよ。それば、今度ぶいやっとかいて話ですよ、議会に、議員に。それをね、そういう新しい時代に、この八代市と八代市議会が入ってい

くんですかというような問いかけなんですよ、今。

そうなれば、この庁舎問題だけじゃないんですよ。議運でいろんなところ、また話さんばならぬとですよ。じゃあ、あそこまで私たちは介入するようにしましょうよと。ほかの地方議会では、そやんことば、今、しよらすけんですね、いっぱい。それで本当にいいんですかって、新しい時代に入っていいんですかっていうところを問いかけたい、問いたい。よかったですか、それで。ただここにおらす人たちで、その一課長がそがん話ばしていいんですか。

答えられぬでしょう、だって、そやん話。全部にかかってくつとですよ、今後の審議の。議会の。議員提案じゃないんですよ。議会としてそこまで介入していくということば決めていくとですよ、今度は、全部。（「えらい高圧的な」と呼ぶ者あり）

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。

○委員（野崎伸也君） いやいや、谷脇さんが答えてもどやんもならぬでしょう。だって一課長だもん。（「そら難しかよ、方向性の話だいけない」と呼ぶ者あり）

○財務部長（岩本博文君） 今度のこの特別委員会は、そうですね、新聞報道とかにもありましたように、要するに、本庁方式の集中型と分散型で、今、平行線の中での議論が行われているというところで、平行線ということであれば、いろいろな案をいただきたい。

この特別委員会が、もともとつくられた意図というのは、どういう庁舎をつくるのかというようなところをここで話していただきたいというところで、たたき台で出しております。

だから、このたたき台をもとに、たたき台はあくまでも本庁方式の集中型なんですけれども、その中で、分散型のかわりの案はこういうものだということを、この特別委員会の中での案として、ただ議論をしていくというよう

な、私は思いを持っておりました。（「趣旨が違う」と呼ぶ者あり）

あくまでも執行部の案でだけでやっていくというんじゃないくて、意見をもらおう。意見をもらおう中で、いろんな案をまた出してもらう。そういう理解をしておりますけど。（委員野崎伸也君「終わりですか」と呼ぶ）いかがでしょう。

（「もう終わった」と呼ぶ者あり）

○委員（野崎伸也君） はい。今問いかけたのは、今回の私たちに、議会に、そういった提案をしてつくってというような話が、今後ずっと引き続き、新しいことになっていきますよと。いろんな部分の、あなたたちが今持っている、市の職員さんたちが持つてる、守ってきたものまで、議会が介入していくことになりまよと、それでいいんですかとというば問うとつとですよ。答えが全く違うじゃないですか。

（委員成松由紀夫君「委員長、ちょっとよろしいですか」と呼ぶ）いやいや、今は俺が聞きよとつとだいいけん。（委員成松由紀夫君「介入て…」と呼ぶ）おかしかるもん。ちょっと待てよ。（委員成松由紀夫君「何や、待てよ」と呼ぶ）僕が今しゃべりよとつとやけん、おかしかるうもん、あつて。（「委員長、委員長が指名せな。整理してください」と呼ぶ者あり）

○委員長（前垣信三君） 私が指名した方の発言でお願いします。（委員成松由紀夫君「本会議でもそれぴしゃつと言つとらぬだつたでしょう、議長も整理し切らぬとだつたんだいいけん。余りにも高圧的に執行部に話し過ぎるのはいかがなもんですかという話をしたかつたんですよ」と呼ぶ）

委員長から申し上げますが――。（成松由紀夫君「執行部が委縮するよ、そういう言い回ししとつたら」と呼ぶ）

○委員（野崎伸也君） 今、対案を出せというような話になってきて、出さんばんですかねつていう話まで行つとるけんが、ちょっと待つてく

ださいつて言うつとつとですよ。本当にそれでいいんですか、執行部はつて。今後の議会との執行部のあり方が変わつてくつとつとですよつていうとば問いよつとつとですよ、今。（「何も高圧的じゃなか」と呼ぶ者あり）本当にそれでいいんですかつて。

○委員長（前垣信三君） ここにですな、私が先ほど申し上げました方式の書類があります。これの中に、分庁方式の場合、あるいは本庁方式の場合の例示をされておりますな。

ただ、この中には、泉支所とか、そういった支所も含めて提案はされています。だから、形としてはですな、執行部としては、本庁方式であり、分庁方式であり、何らかの提案はされております。

だから、これを皆さんが見られると、どういうふうに判断をするかというのは、この委員会の審議の中であると思います。執行部が本庁方式しか出してないですよつていうことには当たらないと、私は思います。

ただ、今、執行部から、委員さんの発議で何か案を出していただければ、この委員会で審査をしようつていうことには、何も異議はないと思いますので、それは構いませんが、執行部にあれするわけではないんですが、執行部は執行部なりに、それなりの案は出されてはおるんですよ、これを見ますとね。ですから、たまたま今の審議の内容が、どうしても本庁方式にこだわつたような方向でお話をされるから難しいと思つうんですな。

この委員会自体をどういう方向性にするか、どういう方式にするかが一番問題であつて、この委員会で討議された内容によって、執行部はその方式をとることはあり得るんですか。まずそこを確認をしておかないと、ここで審議した意味がありません。

というのが、ある新聞報道で、市長さんが、このままでは平行線だとおつしゃつた。平行線

という意味がどういう意味かはわかりませんが、絶対、本庁式は譲らないという話の平行線なのか、お互いが歩み寄りをとって共通点を見つけていくという方向ならばですね、どこまで行っても平行線という話にはならないと思うんですが、この委員会の皆さん方の審議の内容で、執行部、あるいは市長が、そのようは方針転換、——転換と言ったら語弊ですが、そういった方向性をお持ちになるのかどうか。執行部はどうお考えですか。これが一番大事なことだと思うんですね。

○財務部長（岩本博文君） はい。そこまでの、最終的な市長の確認はしていません。

先ほどからですね、案を出せっていうのは、何と言うか、執行部がつくつとるような案というようなイメージは、私たちは持っていません。例えばですね、どこどこの支所を使ってとか、その辺の、何と言うか、もうちょっと具体的なところを示してもらえば、それをもとに、ちょっと。（「執行部でつくってことですね」と呼ぶ者あり）だからそこを、どこどことか、もうちょっと具体的に言ってもらえば、作業がしやすいというところです。

そうせぬと、全支所を使って分散型ってすると、今の執行部の立場上、やっぱり全ての地域の地域振興と言うとりますんでですね、なかなかつくりにくいので、分散型という話を、言うならば、千丁、鏡という話がずっと今出てきますので、その庁舎を使ってどやんかいとか、そういうところをですね、ちょこっとアドバイスをしていただければやってみようかってところなんです。

○委員（村上光則君） それを私は一般質問ですよ、しましたでしょう。それが採決になってきとっでしょう。私たちがそういう考えだからということ言うて、みんなが採決したわけですよ。だから、それによって、市長もですよ、これに歩み寄ってくるか来ぬかですよ、今

の委員長が言われるようにですよ。そういう気持ちがあるのかですたい。全くなかったでしょうもん。

○委員（山本幸廣君） 今、岩本部長から言われた言葉っていうのは、私とその反論じゃないけども、再三と、この特別委員会で、鏡と千丁の支所の活用っていうのは議論しながら、古嶋委員とも激論したあの場面と、あのたはよく見えたでしょう、見えとるでしょう。そういう中で私たちは、いろんな支所の活用というのを提案し、そしてまた、きょうまで来たと思います。

だからこそ、分散についても、あなた方が、執行部は執行権持ってるわけですから、私たちに図面をつくれとか、何々せろとか、それこそ議員の関与になるわけだけんでから、なかなかできないというのが現状なんですよ、今の法律的に言ってもですね。

だからこそ、私たちの意見というのをあなた方が集約しながら、執行部として、じゃあ分散型については、鏡、千丁支所をどう活用するか、そこにどこの部署を入れるのかですね、そこらについては再三と私は言ってきたつもりですよ。

ただ、数字的とか、いろんな設計図関係とか、そういうのを私は提案していません。だけど、それについては、何回もこの特別委員会で議論して提案をしてきて、執行部としても、その提案の中で、ある程度の分散型というものをですね、どこどこの部署に、——鏡はどこどこの部署を入れる、千丁にどこの部署を入れる、職員数はこれだけなんだと。それでもまだ平米数が余っていますとかね。

そういう中で、本庁をどういうふうなコンパクトにつくっていくのかというのを、そういうのをあなたがたがやっぱりして、執行部がそういうのは対案を出していただきたいというのが、私たちの今までの、特別委員会で確認した

事項なんですよ。

それが、今さらもとに戻ってきたから、そういうことばつくれと言ったら、あしたでもつくりますよ、はっきり言って、それぐらいの具体的なことはですね。

○委員（成松由紀夫君） 今、いろいろ出とる中でですね、さっきの成松試案とかなんとか言われてる案も、結局、私がつくれって言うたっじゃなかったですよ。今、何か想像されとる、対案ば出せ、出せが、ぴしゃっとしたものは議員がつくって、少しやや高圧的にですよ、俺たちがじゃあ介入して行ってよかっか、そこまで言うてよかっか、よかっか、よかっかっていう、今、言い回しだったっですよ。

さっきの第3案、私もこれは納得してないんですけど、成松試案って言いよなったばってん、それも、アドバイスの意見としてですね、134からぼーんと切り過ぎた、スペースも含めて。だけん、切り過ぎたけん、そん真ん中ぐらいとば、もうちょっと残すようなやつはできぬとですかて言うて、言うたばかりのやつが、あの案なんですよ。

だけん、今、多分、執行部が言いよつとも、分散型でこやんふうにとかいろいろ村上議員も質問した、何もしたというイメージがあらすわけだけん、それば、なら、こういったものなんだと、我々、俺が描いてるのはこういうもんだ、私が描いてるのはこういうもんだと。そういったものは考えられないのかということを経営部に言えば、執行部がそこら辺を含めて、私のおきにきてきたような第3案みたいなものが出てくるんじゃないですかと。まあ、成松案とか言われてますけど。

だから、それが、例えば村上さんが一般質問の中で、実は俺はね、こういうふうと考えてんだよと、こういう部分だったら、この辺が安いし、こういう部分も市民サービスが向上するから、こういうことはどうなんだってアドバイス

をですよ、野崎委員でも亀田委員でもされた中で意見を出して、それで、それだったら、そこでつくれますよっていう、ただそれだけの話と思うんですけどね。そういうふうに整理してもらったほうがいいと思います。

○委員長（前垣信三君） 私の考え方を申し上げて、皆さん方の意見をいただきたいと思うんですが、基本的に、今、個人的な成松案という話が出ました。

実は、前日、執行部とも話をしました。執行部としては出せない。本来ならですね、成松委員が提案されたことを執行部が考慮して出すのは、執行部の第2、第3案だと、私は思うんですよ。（「そうですね」と呼ぶ者あり）それを、うちはそれは出せませぬという話を、前日はしました。

だから、今回についても、皆さん方がお出しになるのは、執行部としては出しませんというニュアンスであると、これは審議がしにくいと思うんですよ。

ですから、委員さん、成松委員さんがおっしゃった内容で、第3案を執行部がつくってくれたと、そういうたたき台にしないと。（「そういうことです、そういうことです」と呼ぶ者あり）

どなたでもそうなんです、——ちょっと待ってくださいね、どなたでもそうなんです、案を執行部に出されて、執行部がその意図を酌んで案を出してきてる、こういう形にしないと、それこそ成松試案とかになってしまうと思うんですよ。そのあたり、皆さんの共通認識として持っていただきたい。あくまでも、提案は執行部からしていただきたいと思うんですが、そのあたりの御意見を伺いたいと思います。

○委員（矢本善彦君） 今、成松議員が言われたようにですね、もう何度もこんなして、分散型なんか言いよつでしょう。もう審議してるんですよ。だから、はっきりしてやらぬとです

ね、執行部は大変と思うんですよ。どっちも時間がたってしまふ。

だからもう、分散型か本庁型かははっきりもう採決してほしい、先へ進んだがよかじゃなかつたですか。そうせぬと、執行部はいつまでん、ああやって分散型が何かで俺たちは言うてるけども、随分。はっきりしたほうがいいよ。そうしたらつくりやすかけん。（「仮にですわい……」と呼ぶ者あり）ちょっとまだしゃべってるけん、ちょっと待って。

そいけん、私は、委員長、そげんせぬば進まぬよ。もう分散か本庁かをはっきりしてやって、ね。そして、有効活用すつとこは提案してやって、そしてまた1回つくらせてみてほしい。そしてせぬとき、こやんしたふうじゃ成松試案になってしまうもん、そりゃ。（「成松試案じゃなかですわい」と呼ぶ者あり）話がたい。（「俺が案じゃなかですもん、アドバイスなんです」と呼ぶ者あり）話がたい。

そいけん、委員長、そこははっきりして、もう。

分散、本庁と言うて、ずうつとあたこやんしていきよつたて、もう。もう盆の来るばい。

○委員（橋本幸一君） ただですね、むやみやたらにですね、分散、本庁と言ってから、じゃあ、ここの課に200人、支所のほうにあいとるから、じゃあ200人の部署ばぽんと入れると。やっぱしね、そういう何と言うかな、大ざっぱなことじゃいかぬわけですよ。基本的には、ちゃんとした基本的な考えがあつて、そこは配分していかぬと。仮にするにしてもですよ。

だから、私はさっき言ったようにですね、やっぱし、防災機能とワンストップサービスはですね、ここはちゃんと基本の中にしとかぬといかぬとじゃなかつたですか。

○委員（矢本善彦君） はい。今、橋本議員が言いなると、防災と、その何か、（「ワンス

トップ」と呼ぶ者あり）ワンストップって、何か言いなるばつてん、それと合併特例債と云いなるばつてん、防災機能で云いなるばつてん、防災機能をびしゃつとしたてにゃ、電信柱が倒れてこつちは来られぬとですよ。それよりも、コミュニティーばびしゃつとしてやらぬと。いや、本当よ。そやんとにお金使うてやらぬと。

○委員（橋本幸一君） 私が言うのは、そういう状況になったとき、ちゃんとした指揮命令系統のできる庁舎をつくってないと、もう鳥合の衆になってしまうという。これはもう、この前の東日本大震災でちゃんとした、わかつとるわけですよ。

そこをやっぱり、ちゃんと、教訓を生かした庁舎をつくっていかなければならないということ、ワンストップサービスで、もう、これから高齢化社会になったとき、やっぱりちゃんとした庁舎の中で、お年寄りには特にやっぱり、ああいっただけにはふなれだから、それについては、1つの庁舎の中で全てができてしまつて、そこはちゃんとした将来に対しての配慮が必要じゃないかという。

私は、ここはですね、防災機能の、電信柱が倒れたけん来られぬって、そういう問題じゃないと思います。（「市民なしゃん言いなつとですわい。市役所ばかり、しゃんつくつたつて、町の公民館に……」と呼ぶ者あり）

○委員長（前垣信三君） はいはい、済みません、挙手の上、発言をしてください。

○委員（成松由紀夫君） たられば臆測じゃなくて、実際、東北震災の部分、総括された中でもですね、ほかの議員さんも言われましたけど、公民館とか地域コミュニティーが云々というのは、以前からありましたですね、この委員会。

ただ、集まつどがつて、それは、集まられる場所に集まられるんですよ。

ただですね、本庁つちゅうのは、そつから指

示命令系統、日赤、自衛隊のやりとりもある、ドクターヘリの問題だってある。

で、そのときだけじゃなくて、その後の地域復興のですね、要は拠点施設として、いろいろな手続発行だったり何だったりということは、市の職員さん方も、向こうに何人かですね、東北のほうに行って、お手伝いされて、見てきた職員さん方からも聞くそうですね、やはりそういうきっちりしたものが、核となる施設がなければならぬというような話なんで、やはり高齢化社会に向かっただけの、お年寄りに優しい、わかりやすいワンストップサービスと、この防災機能拠点ていうとは、これは絶対譲れぬ話ですし、財源で言うたら、この間、基金みたいな話もちよっと出たんですけど、基金なんかはですね、絶対取り崩さぬでですね、やっぱり有利なこの合併特例債、この3点セットはですね、もうくれぐれも重ねて申し上げますが、しっかり盛り込んで頭に入れた中で審議していただきたいというふうに思います。

○委員（村上光則君） 今、防災機能の話が出ましたけどですね、防災機能を考えれば、ここにつくる必要はなかつた。交通の利便性のあるところに、例えば駅前の方に移ったほうがよか。そやんでしょうもん。（「そぎゃんこっじゃなかくて」と呼ぶ者あり）防災機能がここだったら、混雑するよ、それは。（委員成松由紀夫君「いえ、もう決まってるんです。コンパクトシティで」と呼ぶ）いやいや、話がそやんたい、防災機能は言えよそやんよ。防災機能を言うとなら、交通の利便性のいいところにせぬと。

○委員（山本幸廣君） 成松議員から特例債の話が出ましたですね、あえて私も言いたくないんですけど、特例債の話が出れば、特例債が補助金でただならば、全部、武道館から全部つくったらいんじゃないですか。（「使えるものは使ったほうがいいでしょう」と呼ぶ者あり）

つくったらいんじゃないですか。市立病院だつてつくられるんですよ。（「つくればつくったらいんじゃないですか」と呼ぶ者あり）いいんじゃないですか、全部つくって、500億かかるなら、500億でもいいんじゃないですか。補助金ならそれでつくっていいわけですよ。

ただ、子々孫々、子や孫にやっぱり負の財産を残しちゃいかぬていうのは。あなた方がしっかり言うておられるでしょうが、あるところで。だから、そういうのを考えたときに、今の財政状況と、これからの、やっぱり30年先の八代市の財政状況、計画の中でですよ、どういうふうに変化していくのかということ、これをしっかり、私たちは、今の、やはり議会として、議員として、使命を持つておるわけですよ、使命を。

それはなぜかというのは、我々はやっぱり、市民の方々の血税で、議会費をもらう、歳費をもらってるし、そしてまた、我々の議員の活動の中でも認められた議会としてですよ、市民がつくっておられる法律なんですよ、これは。

だからこそ、私は責任がある。そしてまた、市民に対して、その負の財産を残しちゃいかぬ。そういうことなんですよ。だからこそ、こういう議論ができるんですよ。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）これが一方通行でいったらですね、大変なことになるから、私たちは、これを議論しよるわけだけんが。

そうでしょう。だからこそ、だからこそ、だからこそ今、特例債についてもいろいろと議論して、ただなのか補助金なのか、それともはっきり言ってから借金なのかという議論をする中でですよ、それははっきり言って、執行部も答え切らぬ。執行部は、谷脇君も借金で言ったわけですけんから。

だから、そういう中で、私は、じゃあどうしたらいいのかということで、じゃあ、はっきり

言ってから、今回の新庁舎についてはですよ、じゃあはっきり言って、今の利活用できるならば、鏡支所、千丁支所を利活用して、じゃあはっきり、議会棟もどうすんのか、じゃあはっきり言ってから、この庁舎は、本庁舎はどうすんのかということは今議論しよる。さなかであるわけでしょう。

だからこそ私は、この特例債という問題も含めて。特例債については、しっかりした中で、私たちは市民に、納得のいくような特例債の活用というのをしていかないかぬ。それは、みんな認識は一緒じゃなかかと思うんですよ。だからこそ、今、議論しようわけだいけん。

けども、あの特例債はたい、あんまりそのはっきり言って借金がなかごと、ただで補助金やられるという認識ってのはもうやめてほしいと思う。そういう問題じゃなか。ということで認識してください。

そういうことで、委員長、整理をしていってください。先ほどは執行部から提案の話されて、提案出しますから、これくらいで委員長、どうですかね。

○委員長（前垣信三君） ほかに御意見ございますか。

○委員（野崎伸也君） 今、山本委員がちょっと確認というか、提案ばこっちから出すけんって話だったと。（委員山本幸廣君「うん。向こうが出してくださいって。あとは向こうが責任があるでしょう、それは」と呼ぶ）

だけん、確認したいんですけど、課長が言われたとと部長が言われたとはね、ニュアンスが違うんですよ。課長が言われたとは、さっき私もちょっと憤慨したんですけど、こっちに、議会に出せってというような話だったですよ。部長は、いやいやって、言ってもらえれば、あとはつくりますよってというような話までは、私は言われたと思うんですよ。

だけん、そこはやっぱりですね、執行部のほ

うですよ、ちゃんと私はやっぱり、統一してもらいたいというともあるし、結局、委員長、山本委員が言われたように整理してほしいんですが、いいんですか、それでってとこば、ちょっと確認したいんですよ。どっちだったって話で。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） はい。私がさっき申し上げましたのは、こちらのほうで、結局つくる作業はします。ですが、そのベースとなるところを出してくださいという言い方をしました。

だから、議会に対してつくれということをやったところではございません。（委員野崎伸也君「いや、違ったっですよ」と呼ぶ）

ですから、今現在あるのが執行部案1、2とするならば、今、対案1があるというところ。だけん、対案2、対案3で構いません。それをつくるためのベースを下さいというところでお話をさせていただきました。

それと、もう1つですが、市立病院でございますが、合併特例債があるならば——（委員野崎伸也君「要らぬことしゃべらんちゃよかけん」と呼ぶ）

いやいや、これ、聞いてらっしゃる方々が誤解されると思うんですよ。（「うん、誤解する、誤解する。当然しますよ」と呼ぶ者あり）

（委員野崎伸也君「それはどっか違うとこしゃべればよかじゃなかですか。俺が今質問したとに答えてもらわぬば」と呼ぶ）（「出たけんたい」と呼ぶ者あり）

○委員長（前垣信三君） どうぞ、谷脇課長どうぞ。

○新庁舎建設課長（谷脇信博君） 市立病院といますのが企業会計でございまして、企業ですから、我々この一般会計のほうで合併特例債を使ってからつくるという品物ではございません。企業がつくって、その借金を返していくとき、一般会計は、その借金返す分の半分を繰出

金を出していくという、そういう構造です。

つまり、20億とかいう形も出てきましたので、もしも20億かかるんだったらば、病院事業債を借ります。100%の充当です。それで借りて、その半分、約10億円、これを通常の場合、25年償還しますんで、年の計算でいくと4000万ぐらい。4000万ずつ25年かけて返していく。それを、一般会計がお手伝いするという形になりますので、合併特例債とは全く違う世界の話になります。ということも、ちょっと御理解ください。

以上です。

○委員（山本幸廣君） 谷脇課長、今、私が市立病院の、今、特例債の話ばしたけんでから、補助金という立場の中でね、借金という立場ならば、あなたのような答弁でいいんですよ、ね。成松委員が言われた特例債については、いろんなところから飛び交う中でね、補助金ってやっぱりもう、はっきり言って、ただでくれらすというような認識が多かわけよ、ね、市民の方々も。だからこそ、（聴取不能）たい。わかる。特例債がただならば、市立病院だろうが建ててよかですよということたい、ただならば。国からただでもらいよるけんっていう話ばかりだいけんが。そういうふうに市民は認識しとうとよ、今。一部の市民がよ。全体の市民じゃありませんよ。一部の方々はよ。

だから、そういう認識を、あなた方は今説明したけんでから。私、わかってますよ、あなたが言ったの。調べとっとだけん。市立病院の問題。

だけでも、ただだから言うなら、ただならば市立病院をつくりなさいてなるわけたい。ただそれだけんことたい。

あんたが説明もよかし、私の説明もよくわかつとうわ。（「終わりました、大概で」と呼ぶ者あり）

○委員長（前垣信三君） 先ほど委員のほうか

ら提案をされた内容について、執行部が案をつくるという形で、考え方でよろしいですか。あくまでも、それは個人試案ではなくて、委員から出されたものについて執行部として検討した案という考え方でよろしいですか。そのあたり、皆さん方、共通の認識をしたいと思いますので。そうじゃないと、何々案ということになりますので。あくまでも、それは、委員が出された分については、執行部で検討されて、それにふさわしい案という出し方をされて、そういう解釈でよろしいですか。執行部にお尋ねします。

はい、岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） どんどんどんどん案が出てきますので、いろんな、その次の案、対案ということで、そして、いろんな案の中で、また検討していただくということになるのではないかなというふうに思っています。

以上です。

○委員（成松由紀夫君） 今、それで、委員の方々のアドバイザリーちゅうかアドバイスがあって、それから執行部がまた何々議員のアドバイスからの案ということになるんですね、私どもの話のように。

その部分で、本庁方式集中型の部分だったら、案外スムーズに、スピード感ちゅうか、時間的にすすつと行くと思うとですけども、分散型になると、やっぱり支所活用の問題と絡んできますよね。そうなると、企画が絡んでくつと思うとばってんが、そこら辺はほら、もう一切考えてお任せぬという答弁が何回かあつとるですよ。支所活用とはまた別に、分散型、分庁方式のときの答弁も、10年前の本庁方式でいくということであつていう答弁ばしなつたですたい。考えはございませんというの。

だから、そこら辺とは、どやんかうまくリンクできて、その担当課同士で話しながら、分散型ばつくとれるとですか。（「うん、うまいこ

とせないかぬとかな。すつとが当たり前だも
ん、行政だいけん」と呼ぶ者あり) どうなんで
すか。

○企画振興部長(福永知規君) はい。企画振
興部、福永でございます。

今、御質問の支所の活用ということですが
も、地域振興、それから防災拠点、窓口サー
ビスの提供ということで、これは、支所はその役
割を果たしていくんだということを前から申し
上げさせていただいております。

今、新庁舎の建設についての中での、どのよ
うな変化、影響を受けてくるかということは十
分、執行部の中で調整をさせていただきたいと
思います。

1つだけ、この前、説明をさせていただいた
活用の方法、具体的なものがまだございませ
んということで話をさせていただいた件ですけれ
ども、御紹介させていただいた中の1つの、宮
地東小学校の廃校の活用、これも、公共施設の
再活用、再利用ということで、5月4日に滑り
出しをするというふうに聞いております。

それを行うに当たっても、2年ほどの手続に
要しておりますので、しかし、そういう先例が
あるということは、利活用に対しては道は開け
ているというふうに感じております。

いずれの庁舎にしましても、非常に不動産価
値も高いというようなところは感じますので、
利活用については積極的に推し進めていくとい
う姿勢は変わりません。

以上でございます。

○委員(成松由紀夫君) 前は、ちょっと違
ったと思うとですよね。だから、支所活用につ
いては、今考え中という話だったですよね。本
庁方式、分庁方式の話のときには、いや、その
考えは一切ございませぬだったからですね。だ
から、今の話でいけば、何かまたぼやぼやっ
と、何か変わってきてるような気がすつとで
すけども。それは、変わったんですか、今回は。

(「変わっていかぬばいかぬとたい」と呼ぶ者
あり)

○企画振興部長(福永知規君) 済みません、
私の以前のですね、発言が、そのように受け取
られたということであれば、私の説明不足だっ
たと思いますけども、今申し上げましたとお
り、行政改革大綱の中にも、行政財産の活用と
いうことは明記してございますので、我々はそ
の方針で進めさせていただくということでござ
います。(「わかりやすく言ってください。も
うちょっとわかりやすく。この間の答弁と反比
例するごたる答弁が」と呼ぶ者あり)

○委員長(前垣信三君) よろしいですか。

ほかに御意見はございませんか。(「なし」
と呼ぶ者あり)

はい。実は、先ほど矢本委員さんのほうか
ら、もう採決をしたらどうかという話が出まし
た。確かに、八代市の将来をこの12名の方で
お決めいただくことも大事なことだと思います
が、果たして、その12名の方の意見が市民の
皆さんの意見であるかどうかということになり
ますと、非常に問題があると思いますので。

私は個人的には、なるべく採決はしたくな
い、いろんな議論を重ねた上で、方向性を導い
ていきたいと思っておりますので、どうか、そのあた
りは御協力をお願いしたいと。で、活発な御意
見をいただきながら、何らかの方向性を求めて
いきたいと思っております。

先ほど執行部とも協議は成立をいたしました
ので、委員さん方から御提案があればお出し
ただいて、執行部がそれなりの検討を重ねた上
で、追加の案として皆さん方にお諮りをする
ということでもよろしいでしょうか。(「異議な
し」と呼ぶ者あり) よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(前垣信三君) はい。異議なしと認
めましたので、そのように決しました。

ほかに何かありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(前垣信三君) なければ、次回の委員会の日程について協議を行います。

小会といたします。

(午前11時14分 小会)

(午前11時17分 本会)

○委員長(前垣信三君) 本会に戻します。

次の委員会は、4月14日木曜日10時開会といたしたいと思いますが、よろしくお願いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(前垣信三君) 以上で本日の委員会の日程は、全部終了いたしました。

これをもちまして新庁舎建設に関する特別委員会を散会いたします。

(午前11時17分 散会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成28年4月8日

新庁舎建設に関する特別委員会

委員長